

Title	芸術と経済 ( 五 ) ( 文芸復興期の経済史的研究)
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.5 (1919. 5) ,p.633(87)- 637(91)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190501-0087">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190501-0087</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

aldermen, and, among other things, they have got established a public electric lighting system, secured a three cent fare on a part of the street car system, and an increased tax on street railway property.”<sup>1</sup>

Thus it is an undeniable fact that Socialism is making some progress and producing practical results. But, when we compare its gains in this country with those made by Socialism in some countries in Europe, we find that the movement of Socialism has only begun in the United States. Take, for instance, the increase of socialist votes in France, as shown in the following table :

Year	Socialist Vote	Deputies
1893	440,000	32
1898	751,554	38
1900	863,159	44

Thus, as early as 1893, the French socialists polled more votes than the American socialists did in their very successful campaign of 1904, and elected 32 deputies to the national legislature.

<sup>1</sup> Robert Hunter : Socialists at Work, p. 362.

<sup>2</sup> The Americana.

## 藝 術 と 經 濟 (五)

(文藝復興期の經濟史的研究)

阿 部 秀 助

法王廳の徴税に對して、之れが保管の任務に當る銀行の數が餘りに多數に失せしことは法王マンチン四世をして改革の必要を感じしむるに至り、其結果、獨逸方面に關するものは全部スピグラチスピニ之れが委任を受け、英國方面はスピグラチスピニ以外にプルチ、ブオンシノリー、リチャアルデ、アマンナチの都合五個の銀行によりて營まるゝに至れり、斯くて徴税事務が頗る統一の緒に就くと共に、其間、フロレンスの勢力も亦た漸次見る可きもの多く、次で法王の位に上りしサペリ家のホノリウス四世は既に前時代に於て親しく財務上の樞機に參與せし結果、統一の必要を感じしことは敢て前代と異ならざりしも、然かも之れが撰擇に就きては多少、マルチン四世の場合と相違してプルチ、ブオンシノリー、リチャアルヂよりも當時フロレンスに於て最も勢力を有せしスピグラチ、デ、モッチとアルファニを専ら信頼する

に至れり而してスピグラチ、スピニに至りてはマルチン四世の際と同じく専ら獨逸方面に於ける寺領たるケルンブレメーシ、マグデブルグ、カミンに限られ、其他熱心なる法王黨たるアバチも亦たシ、リ方面に於ける徵稅事務に従事すると共に、マルチン四世と相善からざりしフレスコバルヂも亦た下部以太利に於ける之れが事務に關係せり、即ちホノリウスの時代を以て前時代に比する時は財務上に於て前者は後者よりもフロレンス人の勢力が著しく増加せしことを認むるを得可し、加ふるに長老會議が法王の死後、更にブルチを任命することによりて其勢力は益々大なるに至りしものなりとす。

次にニコラウス四世(一二八八—一二九三)法王の位に即くや、スピグラチ、スピニ、ブルチ、ブオンシノリ、リチアルヂ以外に更にピストヤのチアレッチを加え斯くて法王廳に對する銀行業者の關係は略ぼマンチンス四世の末期と同一の状態を呈するに至りしも、然かも當時に於けるフロレンス人の勢力は又た舊時の如くならず、獨りピストヤ方面のみ盛んなりしが、法王の逝去と共に一種の反動を生み茲にポニファツ時代に於てはスピニ及バルヂを中心としてフロレンスの全盛を齎らすに至れり。

當時銀行が法王廳の徵稅事務に關係せし點は主として集金事務と兩替、保管及資金の送達にして、先づ第一の事項たる銀行業者が宗教上の課稅を集金する場合に参加するに至りしことはグレゴル九世以後にして、只だ之れが初期にありては金融業者は徵稅官の一行に加はりて、納稅者が即次課稅の負擔に應ずること能はざりし場合に一時之れが立替をなせしものにして、純然たる私人的關係に過ぎざりしが、然かも時代を経過するに隨つて被等の勢力は漸次増加し遂に徵稅官は單に空位を有するのみにて、實際上の業務は彼等の左右する處となるに至れり、此事實はルカの町人殊にリチアルヂが専ら徵稅官として英國内に活動せしことを以て證するを得可し、次に法王が銀行業者に對し徵稅事務を委任する場合はニコラウス四世の際の如く自由に或銀行業者を撰擇する際と(例者、北部諸國の十分一税とペーター税がブルジに於けるブルチの代表者に委任せられし如く英國方面に對する課稅は専ら倫敦にある五個の銀行業者の代表者によりて徵收せられたり)他は自余の法王の時代に屢々行われし如く専ら羅馬に根據を有する銀行業者を撰擇せし場合とあり、蓋當時にありて銀行なるものは徵稅上に於ては絶對的に必要なりしものにして、殊に資金の流通上非常なる便宜を興えしことは、多くの場

合を通じて是等銀行の支店が各地方に於ける商業上の最も樞要なる地位に存せしを以てなり、例者イギリス、蘇格蘭、愛蘭三國の金融的中心たりし倫敦に以太利人の多數が滞在せしが如く、即ちアパッチは其一家に屬するものを以て此地の支店長に任命し、又スピニ銀行にてはマイネット、スピナ之れを代表し、其他、チェルチ、バルヂ、モッチ、プルチ、ベルチ等何れも支店を此地に設けしものなりとす、更に大陸方面に於て當時、一個の重要な中心點となりしものはフランダール方面に於ける第一の商業地にして且つ中世に於ける最大の取引所たるブリュージュにして、此地に於てもモッチ、スピニ、アルフアニ及プルチは共に支店を有せり、當時、北國方面及東部方面の課税は一部は船便にて、一部は爲替の方法によりて、何れもブルジュに集まりしものなりとす、次に商業上政治上共に重要な地位にありし巴里は、當時佛國方面に於ける課税の集收せられし地點にして、此都にも以太利の銀行は幾多の支店を設けしものなりとす、例者千二百八十一年の頃、ノートル、ダム附近に開店せしフロンチエシの如き之れが代表者としてガイド、ファルコニエクあり、又スピニ銀行は千二百九十五年頃にベンチオ、ダヴンツァチとリニエチオ、ウゴの兩人を此方面に於ける代表者に任命し、其他、モッチはデオワンニ、チアリチ。ラボ、ピチ。ガルガノ、ボリカ。の三名

をチェルチはベンド、イスクワルチア。ウメルト、ウンテをバルヂはヂュルチオ、マニエロを任命し、チアレソチの如きも亦た支店を有せり、次にニームも當時最も盛大なりし商業地にして、更にシャンパーニュに至つては商業上及金融上の中心としてブリュージュを凌駕せしを以て、此地に於ても以太利の金融業者は各次の代表者を有せしものなりとす、即ちフランチェシ、スカリ、モッチ、バルヂ、スピニの如きは之れが主なるものとなりす。(未定)